

■ 1 新たに展開する重要事項

1 ポスト4長の推進について

2008年度に、大学将来構想委員会（学長諮問機関）から答申された「ポスト4長グランドデザイン」に基づき、今年度は2010年度から始まる次期中長期計画（「第5次長期計画（仮称）」）のグランドデザインを確定する。

「第5次長期計画（仮称）」は、先のグランドデザインに基づき今後5年の間に本学が総合的かつ計画的に取り組むべき重点施策を「中期計画」として策定し、この中期計画を複数期に渡って展開するローリングプラン方式で事業を推進する。

＜グランドデザイン（使命と大学像）の策定＞

今日の社会情勢や文教政策動向等を踏まえ、大学の使命（社会的意義）を明確化し、龍谷大学の目指すべき将来像を明示する。これを実現するための基本目標を教育・研究・社会貢献（連携）・大学運営の、それぞれの分野において定める。

＜中期計画の策定と第三者評価を念頭に入れた推進方策＞

グランドデザインに基づき、これを実現するための当面の方策として、5年の具体的な事業計画（第1期中期計画）を策定する。大学基準協会による第三者評価の周期を一定考慮に入れ、2019年度までの計画期間中に、1期5年の中期計画を2期に分けて展開する。また、「第5次長期計画（仮称）」で目指す大学像を具現化するために、第1期中期計画の到達点と課題をレビュー（評価）しながら第2期中期計画を策定し、以降、これを積み上げていくローリングプラン方式で事業を推進していく。

2 創立370周年記念事業の展開

本年2009年に、本学は創立370周年を迎える。この記念となる年において、本学は「『進取と伝統』～新しさを重ねて370年」という統一テーマを掲げ、各種の創立370周年記念事業を順次展開する。

＜記念式典・祝賀会＞

創立370周年を祝すとともに感謝の気持ちを表すため、2009年10月24日（土）に、記念式典・祝賀会を開催する。

＜国際シンポジウム・21世紀歴史大学シンポジウム＞

ハーバード大学（アメリカ）やチュロンコン大学（タイ）等の世界的に歴史ある大学からパネラーを招聘し、「21世紀歴史大学シンポジウム」を開催する。

＜国際学術シンポジウム・研究高度化推進事業＞

2005年度から取り組んできたアフガニスタン仏教遺跡学術調査に関するシンポジウムを開催する。その他、文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業」で採択された8つの研究プロジェクトを中心とした「人間・科学・宗教シンポジウム」を開催する。

＜その他の記念事業＞

本学吹奏楽部と高校の吹奏楽部との合同演奏会と「生きる」をテーマとした公開講演会を開催する「8都市リレーフォーラム」、宗教界で活躍する方を招聘したリレー講演会「管長講演会－宗教と平和－」、本学学生が企画・実施

する「370の感謝」、環境問題を考え地元小中学生とともに実施する「桜の記念植樹」等を行う。その他にも「新応援ソングの制作」等を予定している。

3 龍谷ミュージアムの設置準備（2011年4月開館予定）

創立370周年記念事業の一環として開設する「龍谷ミュージアム」は、釈尊の誕生から現代の仏教までを分かりやすく紹介する、他に例のない仏教に関する総合博物館で、地上3階地下1階の延べ床面積4,390㎡の建物を建築し、2011年4月の開館を予定している。

＜建築計画＞

建築予定地である本願寺会館と本願寺同朋センターの解体工事を行った後、「龍谷ミュージアム」の新築工事を2009年6月に着工し、2010年7月の竣工を目指す。

＜展示計画＞

2009年度は、展示実施設計をもとに、常設展示における展示資料の選定を進め、展示設備の制作にかかわる。同時に、開設後の特別展の検討を進め、特にオープニング展の「仏教の来た道（仮称）」の開催に向け、資料を所蔵する機関への出陳要請を行う。

＜ミュージアム教員の配置＞

龍谷ミュージアムの設置や運営にかかわり、その中核となって活動する龍谷ミュージアム教員の採用を行い、今後展開する諸事業の具体的な検討を行う。また学術資料を対象とした調査・研究にも積極的に取り組む。

4 実践真宗学研究科の開設

「現代社会の諸問題に対して、宗教がいかにしてその使命を果たしうるか」という課題に応えるために、2009年4月から大学院実践真宗学研究科を開設する。

＜教育の目的＞

本研究科は、教理・教義の研究を中心とする既存の文学研究科真宗学専攻が担ってきた教育・研究を基礎として、複雑化・多様化する現代の諸問題に、実践的・具体的に対応しうる宗教者のあり方について教育・研究するとともに、社会に求められる宗教的实践者にふさわしい高度専門的な素養の修得を図る。

＜教育の特色＞

学内外での実習・研修を重視し、理論研究と実践実習に十分な学修時間を確保するために、既存文学研究科と異なり、修業年限を3年とする。1年次は、実践真宗学総合演習を中心に自身の研究の方向性を定め、2年次からは、〈宗教実践活動に関わる分野〉と〈社会実践活動に関わる分野〉のいずれかの分野を選択し、専門研究科目を履修する。3年次は、実践実習を行い、さらに研究成果の総合として学位論文または特定の課題についての研究成果を作成する。

5 理工学研究科博士後期課程（情報メディア学専攻・環境ソリューション工学専攻）の開設

2007年に設置した、情報メディア学専攻及び環境ソリュ

ーション工学専攻の修士課程を拡充発展させ、大学院における継続した研究、教育体制を確立することにより、社会的な要請に対応できる人材の養成を目指し、理工学研究科博士後期課程に次の2専攻を新たに開設する。

＜情報メディア学専攻＞

情報メディア学専攻は、21世紀の課題である持続的循環型社会を実現するために、急速に発展する情報科学とダイナミックな展開を図る技術革新の分野において多面的な様相を見せている課題に対して総合的に理解し、その課題解決を追求する人材の育成を行う。

＜環境ソリューション工学専攻＞

環境ソリューション工学専攻は、環境問題への対応を図るために、目的解決型の工学的知識に加え、自然環境・生態系に関する幅広い知識をもった、豊かで潤いのある生活環境の創造を志す若い研究者・技能者の育成を行う。

6 教育環境・学生生活環境の充実

＜ともいき荘オープン＞

ともいき荘は2棟からなり、本館は短期合宿や講座・研修・会議の開催、交流・宿泊ができる施設として、別館は全館を留学生寮として2009年度より利用を開始する施設である。本学における教育環境・学生生活環境の充実に資する施設として、今後、より良いサービスの提供に努めていく。

＜瀬田学舎中・大規模教室の建設＞

瀬田学舎において、2007年度以降、受講者500名以上の科目が増加していることから、収容人数600名1室、収容



ともいき荘（本館）



ともいき荘（別館）

人数300名2室、200名3室を配備した講義棟を建設し、充実した教室環境を整備する。また、建設場所は駐車場敷地の一部を予定しており、その駐車場の代替地として瀬田学舎の各所に駐車場を設置し、駐車台数を増加する。

＜情報教育環境の整備＞

第4次長期計画事業の一つとして、従来に引き続き、「ユビキタス教育環境整備事業」を進める。その中で2009年度は全学的な情報教育システムのリプレイスを実施する。また、大宮学舎清風館（しょうふうかん）に新たに情報実習室とセルフラーニング室を設置し、多様なメディア機器を利用した効果的な授業の推進を図るとともに、継続的な教育基盤整備を図るため普通教室及びゼミ室マルチメディア教育環境改善の整備を実施する。

7 事務職員の人事制度改革

ポスト4長による大学改革を達成するための新たな事務職員体制の確立をめざし、2009年4月から新人事制度を実施する。

＜人事制度改革の到達目標＞

- ①職員一人ひとりが課せられた役割と責任を自覚し、職務に対する意欲を持ち、職能及び専門性を向上させ、それらを職務遂行において発揮できる人事制度を確立する。
- ②職員の人件費枠を遵守しつつ、将来においても適正な事務組織の体制を整備できる人事制度を確立する。

＜人事制度改革における具体的方策＞

コース制（総合職型スタッフ、特定職務型スタッフ）と管理職による面接制度を新設したほか、「資格制度」、「評価制度」、「研修制度」、「給与制度」を連関させ、総合的な人事制度を構築する。